



	2024-72
製作総指揮: 劉偉強 (アンドリュ ー・ラウ)	
監督: 李達超 (リー・タッチウ)	
出演: 王一博 (ワン・イーボー) / 黄景瑜 (ホアン・ジンユー) ／鐘楚曦 (チョン・チュシー) ／欧豪 (オウ・ハオ) / 谷嘉誠 (グー・ジアチェン) ／ナリス・バイ / ナン・フー ロン / 朱亜文 (ジュ・ヤー ウェン) / イン・シャオテン ／トマス・フィケ	

👁️👁️ みどころ

経済面、軍事面だけでなく映画産業においても、今や「米国に追いつき、追い越せ！」を目指す近時の中国では、『戦狼 2 ウルフ・オブ・ウォー2』(17年)、『シネマ 44』(43 頁)を筆頭として、戦争巨編が大ヒットを続けている。2人の若手人気俳優を共演させた超本格アクション巨編たる本作もその一つだ。

アフリカの某国における独裁者 vs 反政府勢力の対立の下、国民はもがき苦しんでいたが、そこに中国から 10 名の FPU (国際平和維持部隊) が派遣されたのは一体なぜ? 本来はその解説が不可欠だが、「エンタメ巨編ではそれは不要!」とばかりに、“若き勇者たち”の活躍が次々と!

2 人の人気俳優のファンは大喜び! したがって、本作も大ヒット! それは間違いのないかもしれないが、国際連合における PKO 活動 (United Nations Peacekeeping Operations) とは? 国連警察 (UNPOL) と、中国の FPU との違いは? ロシア vs ウクライナ戦争もハマス vs イスラエル紛争も泥沼化し、国連の機能不全ぶりが目立つ昨今、アフリカの某国の内戦 (?) における中国の FPU の役割については、もう少しきめ細かい勉強が不可欠だ。

■□■FPU=国際平和維持部隊とは?なぜ中国がこれを派遣?■□■

ドイツ、イタリア、日本の“枢軸国”が米英ソ中の“連合国”に敗れたことによって、第二次世界大戦は終了した。その後、米ソの対立構造による「東西冷戦の時代」が続いたが、結局米国がそれに勝利したことによって、以降、米国は“世界の唯一の超大国”として、ヨーロッパ方面でも極東方面でも、長い間“世界の憲兵”としての役割を果たし続けてきた。しかし、1980 年代以降の米国の衰退と中国の台頭という新たな時代的潮流の中、2024 年 11 月の大統領選挙を 1 か月後に控えた今、世界の政治、経済、軍事、外交の面に

における中国の存在感はますます高まっている。

そんな時代状況下、ハリウッドに次ぐ世界第 2 の映画大国に成長した中国では、かつての TV 界を牛耳っていた（？）「紋切り型の反日抗戦の TV ドラマ」は減少。それに代わって、中国人民解放軍 90 周年の記念日となる 2017 年 8 月 1 日の建軍節に合わせて公開された『戦狼 2 ウルフ・オブ・ウォー2』（17 年）（『シネマ 44』43 頁）が、興行収入 1,000 億円を超える中国映画最大の大ヒットとなった。同作は、「中国版ランボー」と呼ばれる、呉京（ウー・ジン）演じる元人民解放軍の特殊部隊のさらに上に行く特殊部隊である「戦狼中隊」の一員だった主人公、冷鋒（レン・フォン）が、内戦の発生したアフリカの某国で、『ランボー』シリーズでシルベスタ・スタローン演じた主人公ランボー並みの、いや、それ以上の大活躍を、中国（人民解放軍）のために繰り広げるという映画だった。

それから 7 年。中国人民解放軍の保有する空母は今や 3 隻となり、つい先日の台湾包囲作戦の訓練では、はじめて「中国発の大型空母」“遼寧”が実戦配備されていた。したがって、一方で膨大な物量の海上兵力と航空兵力によって台湾に対する米国の応援を阻止しつつ、他方で、膨大な数の中国人民解放軍を四方から台湾（島）に上陸させるという台湾制圧作戦は、今や着々と射程圏内に入っている可能性が高い。

しかして、中国の FPU って一体なに？これは「Formed Police Unit」の略で、「国連平和維持活動のために組織され、平和的に紛争を解決する警察部隊」のことだが、それって一体ナニ？そしてまた、なぜ今の中国で、そんな本作が公開に？

■国際連合の機能不全と PKO の役割を考える！■

戦後、国際連盟から装いを新たにした国際連合では、戦勝国になった米英仏ソ中の 5 カ国が国際連合安全保障理事会常任理事国を構成したが、米ソ対立と冷戦構造の中、この国際連合は十分な機能を果たすことができなかった。国連の機能不全ぶりは、2003 年から 2011 年のイラク戦争においても、2001 年から 2021 年のアフガニスタン抗争においても明らかであり、それに代わったのは、米英を中心とする“有志連合”であった。さらに、近時の、2022 年 2 月 24 日に始まったウクライナ VS ロシア戦争や、2022 年 7 月に始まった Hamas VS イスラエル抗争でも、機能不全は明らかになっている。

他方、新たな戦後の東西対立の中で、国連憲章が予定していた安全保障理事会による国際の平和及び安全の維持（第 7 章に定める集団安全保障制度）が十分に機能しなかったため、国連が紛争地域の平和の維持を図る手段として、実際の慣行を通じて行ってきた国連平和維持活動（United Nations Peacekeeping Operations：略称国連 PKO 又は単に PKO）が重要である。これは、ダグ・ハマーショルド第 2 代国連事務総長が「憲章 6 章半」の措置と呼んだとおり、国連憲章上明文の規定はないが、重要な役割を果たしてきた。

ちなみに、憲法上、軍隊の保持が禁じられている日本の PKO に対する財政支援は、アメリカ、中国に次ぐ第 3 位である上、2011 年以降、国連南スーダン共和国ミッションの司令部への 4 名の自衛官の派遣等において、日本は PKO 活動について大きな役割を担って

いる。このように、PKO で日本がいかなる役割を果たしてきたかについて、日本人はよく知っているが、中国にあるという FPU (Formed Police Unit) は国際連合の中で具体的にどんな役割を果たしてきたの？日本人の私は、それを全く知らなかったが・・・。

■□■たった 10 人の分隊でナニを？主人公たちの任務は？■□■

『戦狼 2』は、元中国人民解放軍兵士を主人公にした、“中国版ランボー” ぶりが全世界に衝撃を与えたが、宇宙開発の面でも、今や中国は米国に追いつき追い越せを実現していることを誇示したのが、『流転の地球―太陽系脱出計画―』(23 年) (『シネマ 55』208 頁) だった。同作では、100 年後に太陽系が消滅することを前提として、地球連合政府が立案した「移山計画」の行方が注目点だった。そして、『ディープ・インパクト』(98 年) では、米国大統領が冷静沈着なリーダーシップを発揮していたのに対し、同作でリーダーシップを発揮したのは地球連合政府の中国代表だったから、すごい。

もっとも、同作で何万キロも上空に昇っていく「宇宙エレベーター」を中心として、訓練を受ける訓練生たちは、選りすぐりのエリートだったが、本作のテーマとされている FPU の隊員たち (のレベル) は？中国の法律上、FPU の隊員たちの身分がどのように設定されているのか私にはさっぱりわからない。政府軍と反政府軍との武力紛争が激化するアフリカに今、中国から派遣される FPU の規模は 10 名の分隊だが、彼らの任務は一体ナニ？チームワークを重んじる分隊長の余衛東 (ユー・ウェイトン) (黄景瑜 (ホアン・ジンユー)) 以下 10 名の隊員が派遣されたのは、あくまで現在の都市の治安維持のためだ。そのため、人一倍正義感の強い狙撃手、楊震 (ヤン・ジェン) (王一博 (ワン・イーボー)) や通訳、連絡係の女性隊員、ディン・ファイ (鐘楚曦 (チョン・チュシー))、そして、小隊長のジョウ・ジアシュエン (欧豪 (オウ・ハオ)) たちは、最も危険なエリアに向かい、逃げ場を失った人々の安全確保のための任務に全力で邁進したが・・・。

■□■アフリカ某国の紛争の構図は？FPU の役割は？■□■

『戦狼 2』でも、映画の舞台となる紛争地はアフリカの某国だった。そして、ワルはその某国で大きく成長した独裁者と、それに抵抗する反政府勢力だった。中国がアメリカ以上の経済的、軍事的援助を続けてきたアフリカ諸国では、中国の影響力が大きいから、同国で独裁者 (独裁政権) が生まれ、庶民に対する抑圧を強めれば、それに抗して反政府勢力が生まれるのは当然。そこで、後援者としての中国は、それなりに口出ししなければならないわけだが、その点は本作の設定も同じだ。

早速、町の中心部の広場に向かった 10 人の FPU 隊員たちの目の前では、反政府勢力のリーダーたるアミールが命じたスナイパーの手によって、何の罪もない少年が、ディンの手当ての甲斐もなく射殺されてしまうことに。また、熱血漢のヤンは直ちに犯人を追跡したものの、あと一步のところまで取り逃がしてしてしまうことに。そんな中、地元議員らが拉致監禁される事件が発生し、犯行グループから「アミールを釈放しなければ、15 分後に人質を殺害する」との声明が届いたから、さあ大変だ。

綿密な作戦を立て、FPU 第1分隊が敵のアジトに突入し、激しい銃撃戦が始まることに。そこで激昂した犯人が「人質を全員殺す」と脅したため、作戦部長ファビオは FPU に撤退命令を下したが、混戦下の隊員たちにその指令がうまく届かず作戦を続行したことで、援護隊員ジャンが敵に撃たれて負傷。そして、人質は無事救出できたものの、中止命令を破ったこと、時限爆弾を独断で処理したこと、判断ミスで重傷者が出たことが上層部に問題視されてしまうことに。そこで、責任を問われた分隊長ユーは「判断を仰ぐ時間はなく、人命救助を優先したことに問題があったとは思いません。命がけで任務を遂行した隊員たちは私の誇りです」と毅然とした態度で反論し、隊員たちを守り抜いたが、さあ、そんな中国の FPU の言い分は認められるの？

■□■ 2人の若手人気俳優が大ブレイク！タイトルには納得！ ■□■

本作で正義感の強い狙撃手ヤン役を演じたワン・イーボーは、近時『無名』（23年）（『シネマ 56』130頁）、『ボーン・トゥ・フライ』（23年）（『シネマ 56』138頁）等で主演を演じ、若者の人気を一身に集めている俳優だ。また、常に冷静、沈着な分隊長ユー・ウェイトン役を演じたホアン・ジンユーを私は全く知らなかったが、彼も若手の人気トップ俳優らしい。

したがって、本作のうたい文句は「中国を代表する若手俳優ワン・イーボー主演で放つ、超本格アクション巨編！」とされている上、「FPU」では何の映画かわからないため、邦題には「～若き勇者たち～」というサブタイトルが付けられているから、本作の狙いは明白だ。したがって、そんな本作では、冒頭から若き 10名の FPU の隊員たちの友情と団結が描かれた後、いきなり少年の射殺という、とんでもない事態に巻き込まれていく隊員たちの苦悩と活躍ぶりが描かれていくことになる。アフリカ某国ならでは（？）の次々と発生する大量虐殺、テロ、暗殺、暴動、人質事件等はハードなものだから、それにわずか 10名の分隊で立ち向かう中国の FPU 隊員たちの任務は大変だ。その任務展開中には、仲間の死亡や任務の失敗等の試練も待ち受けているから、本作の第一のお楽しみは、そのハードアクションとなる。もともと、中国映画特有の人情モノの展開として、ヤン・ジェンとユー・ウェイトンが、なぜ FPU の若き勇者としてここまでの意地の張り合いを続けているのかについての“エピソード”も登場するので、それにも注目！

なるほど、なるほど、本作はそんな映画！しかし、待てよ。私には、本作の鑑賞を終えてもなお、中国の FPU なるものがどんな組織なのか？そして、国連の PKO 活動において日本が果たしてきた役割は理解できるものの、中国の FPU に属するヤン・ジェンとユー・ウェイトンたちの「若き勇者たち」が、なぜ今アフリカの某国でそんな過酷な任務に従事しているのか、さっぱりわからなかったが・・・

■□■ 再度 FPU とは？派遣の根拠は？国連警察に非ず！ ■□■

情報化社会の今では、ネットを検索すれば、どんな情報でも入手できる。「闇バイト」で検索すれば、昨今大きな社会問題になっている“強盗殺人”の闇バイトに必要な情報だっ

で簡単に……。したがって、本作の原題となっている『維和防暴隊 Formed Police Unit』や、邦題の『FPU～若き勇者たち～』についても、ネットで調べればチョロイもの！そう思っていたが、何の何の、国際連合の PKO 活動 (Peacekeeping Operation) や国連警察 (UNPOL) についてはいくらでも資料があるものの、中国の FPU の情報はほとんど見つからなかった。

ちなみに国連警察 (UNPOL) とは、国連平和活動局 (UN Department of Peace Operations) 内にある警察課 (Police Division) を通して、国連平和活動の現場に警察要員を派遣し、文民保護や現地警察の育成等の重要な任務を担うものだ。これについては、国際平和協力研究員・吉田祐樹の「第 102 回国連警察 (UNPOL) の概要と国連平和活動における役割」(2019 年 10 月 28 日) を発見することができた。

他方、中国の FPU については、唯一、地域研究部中国研究室・増田雅之の「ブリーフィング・メモ 中国の国連 PKO 政策－原則と現実の狭間」を発見することができた (2021 年 10 月号) のみだった。同論文は、

はじめに

- 1 部隊派遣の決断 (2000 年代初頭)－危機感に基づく関与
- 2 「作戦部隊」の派遣 (2010 年代)－慎重な積極姿勢
- 3 ヒト、モノ、カネ、そして経験の提供－主導権の確保
- 4 PKO 要員の安全改善をめぐるイニシアティブ－乖離する原則と現実

おわりに

という構成で、タイトルの内容を論じている。

そして、「1 部隊派遣の決断 (2000 年代初頭)－危機感に基づく関与」の中に、

さらに 2004 年 9～10 月、国連ハイチ安定化ミッション (MINUSTAH) に警察部隊 (FPU) 125 人を中国は派遣した。

と書かれていた。なるほど、なるほど。もっとも、同論文が FPU について記述しているのは上記のみで、主要な論点は「2 「作戦部隊」の派遣 (2010 年代)－慎重な積極姿勢」、「3 ヒト、モノ、カネ、そして経験の提供－主導権の確保」、「4 PKO 要員の安全改善をめぐるイニシアティブ－乖離する原則と現実」にあることは明らかだ。

そんな視点で考えれば、中国映画が中国の警察部隊である FPU (Formed Police Unit) に注目し、2 人の人気俳優を起用して、“若き勇者たち”の活躍をスリリングに描きたい気持ちはよくわかる。しかし、少しはその実態や役割についての明確な解説が必要だったのでは？

2024 (令和 6) 年 10 月 24 日記